



3 総合交通戦略の目標

3.1 上位計画における将来像等

1) 奈良市第5次総合計画（策定中）

策定中の奈良市第5次総合計画では、2031年のまちの姿として、『「わたし」からはじめる「わたしたち」のまち 奈良』を掲げています。

また、『自由で安全に出かけられるために』、『まちの価値をより高めるために』というテーマのもと、交通関連の施策の方向性を示しています。

■2031年のまちの姿

「わたし」からはじめる「わたしたち」のまち 奈良
ひとりひとりが「わたし」の人生をつくっていくように、「わたしたち」自身が主役となって夢や希望にあふれる未来をつくっていけるまちを目指します。

■交通に関する施策の方向性

○自由で安全に出かけられるために

- ・交通体系の構築
公共交通を生かした持続可能な交通ネットワークの構築
リニア中央新幹線の誘致
- ・道路整備の推進
都市計画道路網の検証と幹線道路網の整備
道路施設のバリアフリー化等
無電柱化の推進
- ・交通安全対策の推進
交通安全教育及び交通安全運動の推進
通学路の安全対策

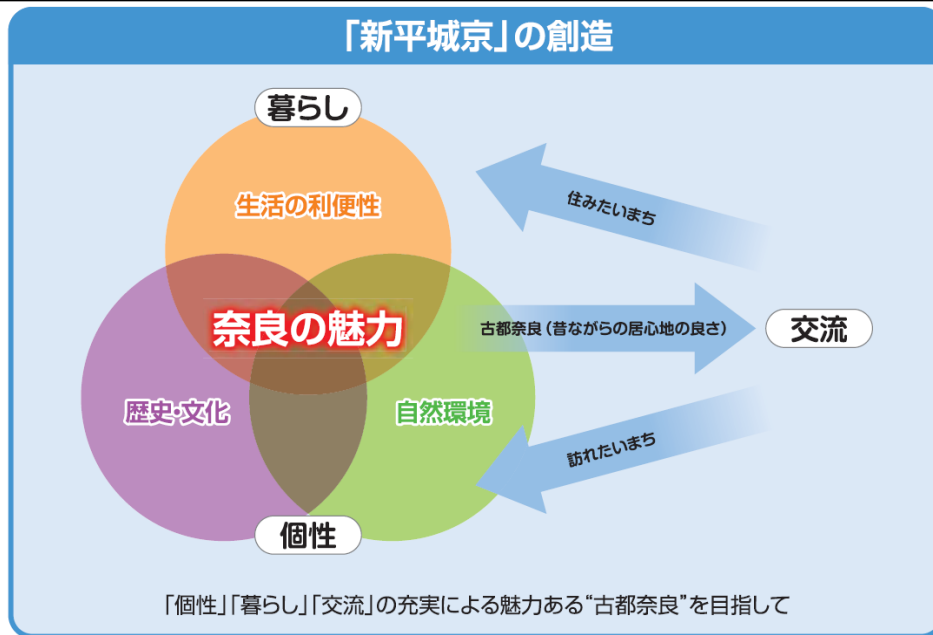
○まちの価値をより高めるために

- ・計画的な土地利用の推進
効率的でまとまりのある都市の形成
高速道路インターチェンジと鉄道駅が近接した交通結節
機能を生かしたまちづくり

2) 奈良市改訂都市計画マスタープラン（平成 27 年 7 月）

奈良市改訂都市計画マスタープランでは、まちづくりのテーマとして、『「個性」「暮らし」「交流」の充実による魅力ある古都奈良を目指して』を掲げています。

■まちづくりのテーマ



■まちづくりの基本理念と主な交通関連施策

○個性豊かな「なら」美しく
個性ある都市の実現

- ・地球環境への配慮
都市環境負荷の低減
低炭素社会の実現
集約型都市構造の形成
道路整備による交通の円滑化
公共交通の利用促進

○暮らし豊かな「なら」安全・安心で
暮らしよいまちづくり

- ・交通利便性の向上
交通体系の見直し
生活道路の整備
公共交通機関の充実及び利用促進

○交流豊かな「なら」都市の競争力・連携の強化

- ・交流基盤の整備
広域交通基盤の整備
京奈和自動車道の整備、大宮通り線の改良
リニア中央新幹線の誘致
観光交通の整備
P&R、自転車利用の促進、
歩行者にやさしい道路環境の整備



3.2 交通体系の将来像

前項で示した上位計画における将来像等を踏まえ、奈良市における交通体系の将来像を『自由で安全に出かけられ、多くの交流が生まれる、住み続けたいと思えるまちづくり』と設定しました。

また、設定した交通体系の将来像を、以下の5点により具現化しています。

奈良市における交通体系の将来像

「自由で安全に出かけられ、多くの交流が生まれる、住み続けたいと思えるまちづくり」

- ① 既存の公共交通ネットワークや新たな交通結節点を最大限活用したまちづくりを推進します
- ② ひとを中心とした交通(鉄道・バス・タクシー・新たな公共交通システム・自動車・自転車・徒歩など)のベストミックスにより、持続可能な地域交通の構築を目指します
- ③ すべての関係者が連携・協力し、交通が交流を支え、交流が交通を支えるという好循環の確立を目指します
- ④ 人、ものの交流と観光を含む広域交流を支える仕組みをつくります
- ⑤ エリアの特性を活かして、各エリアの持っている魅力を活かします

① 既存の公共交通ネットワークや新たな交通結節点を最大限活用したまちづくりを推進します

奈良市では、既に鉄道・バス・タクシー、シェアサイクル等による公共交通ネットワークが形成されているとともに、高速道路インターチェンジと鉄道駅が近接した新たな交通結節点が形成される予定です。

本交通戦略を活用し、そうした既存ストックや新たな交通結節点を有機的に連携させることにより、効果的・効率的なまちづくりを推進します。

② ひとを中心とした交通(鉄道・バス・タクシー・新たな公共交通システム・自動車・自転車・徒歩など)のベストミックスにより、持続可能な地域交通の構築を目指します

奈良市では、今後大幅な高齢化の進展が見込まれ、自動車を運転できない高齢者等の割合が増加することが見込まれます。また、観光を地域振興につなげていくために観光客が回遊しやすい環境も求められます。

そうした状況に対応するために、「ひとを中心とした交通(鉄道・バス・タクシー・新たな公共交通システム・自動車・自転車・徒歩など)」をベストミックスさせ、利便性を確保しつつも、持続可能な地域交通の構築を目指します。

③ すべての関係者が連携・協力し、交通が交流を支え、交流が交通を支えるという好循環の確立を目指します

奈良市第5次総合計画では、2031年のまちの姿として、『「わたし」からはじめる「わたしたち」のまち 奈良』を掲げており、市民や地域を始めとするすべての関係者が連携・協力し、クロスセクター効果(多面的な効果、p3-10参照)を発現することで、交通と交流がお互いを支え合う好循環を確立することを目指します。



④ 人、ものの交流と観光を含む広域交流を支える仕組みをつくります

奈良市では今後、京奈和自動車道の整備、JR 関西本線新駅の整備が予定されていることに加え、リニア中央新幹線の誘致を目指しており、地域振興のみならず、奈良県内や関西全体の活性化を図るため、人、ものの交流と観光を含めた広域交通を支える仕組みを作ります。

⑤ エリアの特性を活かして、各エリアの持っている魅力を活かします

奈良市は、「東部地域」「中部地域」「西北部地域」の地域によって地理地形条件や都市機能などの特性が異なるため、そうした特性を踏まえた効果的・効率的な交通体系や、地域の魅力を活かすための交通環境の充実を目指します。



3.3 交通に関する目標

交通に関する目標は、「東部地域」「中部地域」「西北部地域」の3つの地域によって、地理地形条件や都市機能などの地域特性、交通に関する課題が異なることから、以下のように設定しました。

各地域における目標の詳細は、次ページ以降に示します。

■ 地域区分



出典：奈良市改訂都市計画マスタープラン（H27.7）

交通に関する目標

【西北部地域】	【中部地域】	【東部地域】
<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もが移動しやすく、ずっと生き生きと暮らせるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行者を中心とした、ゆっくり巡りたくなる賑わい溢れるまち ● 人と公共交通を中心とした、住みやすいまち 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心して移動し続けられ、交流が生まれるまち

3.3.1 東部地域の交通に関する目標

東部地域の交通に関する目標は、奈良市改訂都市計画マスタープランにおける地域づくりのテーマ、交通に関する課題を踏まえ、「安心して移動し続けられ、交流が生まれるまち」と設定しました。

■地域づくりのテーマ（都市計画マスタープランより）

■東部地域（地域Ⅰ）

～文化・交流が豊かな里～

豊かな自然と歴史・文化を保全・活用しつつ、生活関連機能の充実や計画的な道路整備、農林業の活性化などを図ることにより、豊かな自然や歴史・文化と共生した、交流が盛んな里づくりを展開します。

■月ヶ瀬地域（地域Ⅷ）

～「梅林」とともに豊かな時を刻む奈良の奥座敷～

金沢の兼六園・奈良公園とともにわが国最初の名勝に指定された「月瀬梅林」を中心とした美しい自然環境や歴史・文化を保全・活用しつつ、農業を核とした地域振興、交通利便性の向上を図り、ゆったりと豊かな時を刻む奈良の奥座敷づくりを展開します。

■都祁地域（地域Ⅸ）

～緑に包まれた活力溢れる高原のまち～

豊かな自然を保全しつつ、高原地域の特性や広域交通の利便性を活かした農業・工業の充実による地域振興を図り、活力溢れるまちづくりを展開します。

■交通に関する課題（2章より）

- 特に運転できない住民が、日常生活を営む上で必要な都市機能・都市サービスを楽しむための移動手段の確保が必要
- 自ら移動ができる住民にとっても、都市機能・都市サービスをより受けやすくするために、奈良市の中心部および東部地域周辺都市への交通利便性の向上が必要
- 人口が少ない故の他地域と異なる“コミュニティ”の力を活かすことが重要

■交通の目標

安心して移動し続けられ、交流が生まれるまち



3.3.2 中部地域の交通に関する目標

中部地域の交通に関する目標は、奈良市改訂都市計画マスタープランにおける地域づくりのテーマ、交通に関する課題を踏まえ、「歩行者を中心とした、ゆっくり巡りたくなる賑わい溢れるまち」及び「人と公共交通を中心とした、住みやすいまち」と設定しました。

■地域づくりのテーマ（都市計画マスタープランより）

■中央市街地地域（地域Ⅱ）

～歴史・文化都心として居心地の良さが際立つまち～

1300年にわたって継承されてきた歴史・文化・伝統や豊かな自然を基盤とし、生活利便性を高めることで居心地が良く、住み続けたいまちづくりを展開するとともに、奈良らしい観光産業の育成や交流基盤の整備により、国内外の人々が訪れ、居心地の良さを体感し、滞在する国際文化観光都市の中核としてのまちづくりを展開します。

■南部地域（地域Ⅲ）

～緑薫る「山の辺」の活力あるまち～

豊かな自然や歴史・文化遺産、「山の辺」の景観や田園風景を活かしつつ、住宅地の生活環境や農業・工業の生産基盤を充実し、人々の心意気を大切に、緑薫る活力あるまちづくりを展開します。

■中部地域（地域Ⅳ）

～奈良のシンボル・平城宮跡を活かした個性豊かなまち～

奈良市のアイデンティティの中心として、平城宮跡の復原整備や朱雀大路跡を軸とした歴史・文化緑地帯の形成を図り、自然や歴史・文化と暮らしが共生する、個性豊かなまちづくりを展開します。

■交通に関する課題（2章より）

- 国内外からの観光客が増加する中、日本中、世界中からの観光玄関口として、増加する観光客を円滑に受け入れられるよう、また楽しく周遊・滞留できるよう、**中心市街地へのアクセス性や周遊観光をする際の移動の快適性の向上が必要**
- 地域内を移動する住民・観光客にとって、道路渋滞の解消が生活・観光の満足度向上につながると考えられるため、過度な自動車利用によらなくするための総合的な交通体系の構築が必要
- 住宅地と観光地が混在するため、**地域と観光が協調する都市像を目指すことが重要**

■交通の目標

- 歩行者を中心とした、ゆっくり巡りたくなる賑わい溢れるまち
- 人と公共交通を中心とした、住みやすいまち

3.3.3 西北部地域の交通に関する目標

西北部地域の交通に関する目標は、奈良市改訂都市計画マスタープランにおける地域づくりのテーマ、交通に関する課題を踏まえ、「誰もが移動しやすく、ずっと生き活きと暮らせるまち」と設定しました。

■地域づくりのテーマ（都市計画マスタープランより）

■西ノ京東麓地域（地域Ⅴ）

～緑と歴史・文化が織りなすやすらぎと交流のまち～

西ノ京丘陵の緑や歴史的風土を保全・活用しつつ、中心市街地に次ぐ都市及び交流の拠点である近鉄大和西大寺駅周辺の都市機能や医療福祉機能の強化、交流の玄関口としての顔づくりにより、やすらぎと交流のまちづくりを展開します。

■西部地域（地域Ⅵ）

～緑豊かで利便性の高い生活文化を育むまち～

地域西部に広がる丘陵地の緑を保全しつつ、郊外型住宅地としての良好な生活環境や充実した交通網による交通利便性を伸展し、大阪都市圏の住宅地として生活利便性をより一層高め、持続可能で活力ある生活文化を育むまちづくりを展開します。

■北部地域（地域Ⅶ）

～豊かで活力ある生活を創造するまち～

整備された良好な都市基盤を活かし、関西文化学術研究都市の玄関口として、多様なニーズに対応した都市機能の充実、住民主体によるまちづくりなど、まち自らが再生・成長し、常に豊かで活力ある生活を創造するまちづくりを展開します。

■交通に関する課題（2章より）

- 主に住宅地としての地域となっており、住民の暮らしやすさを高めるため、駅を中心とした交通利便性の向上・持続が必要
- 住民が徐々に高齢化していくが、自家用車を利用できなくなっても、幹線交通（鉄道・バス）へのアクセスを確保するなどして、これまで同様の暮らしを保てるような移動ができる総合的な交通体系の構築が必要

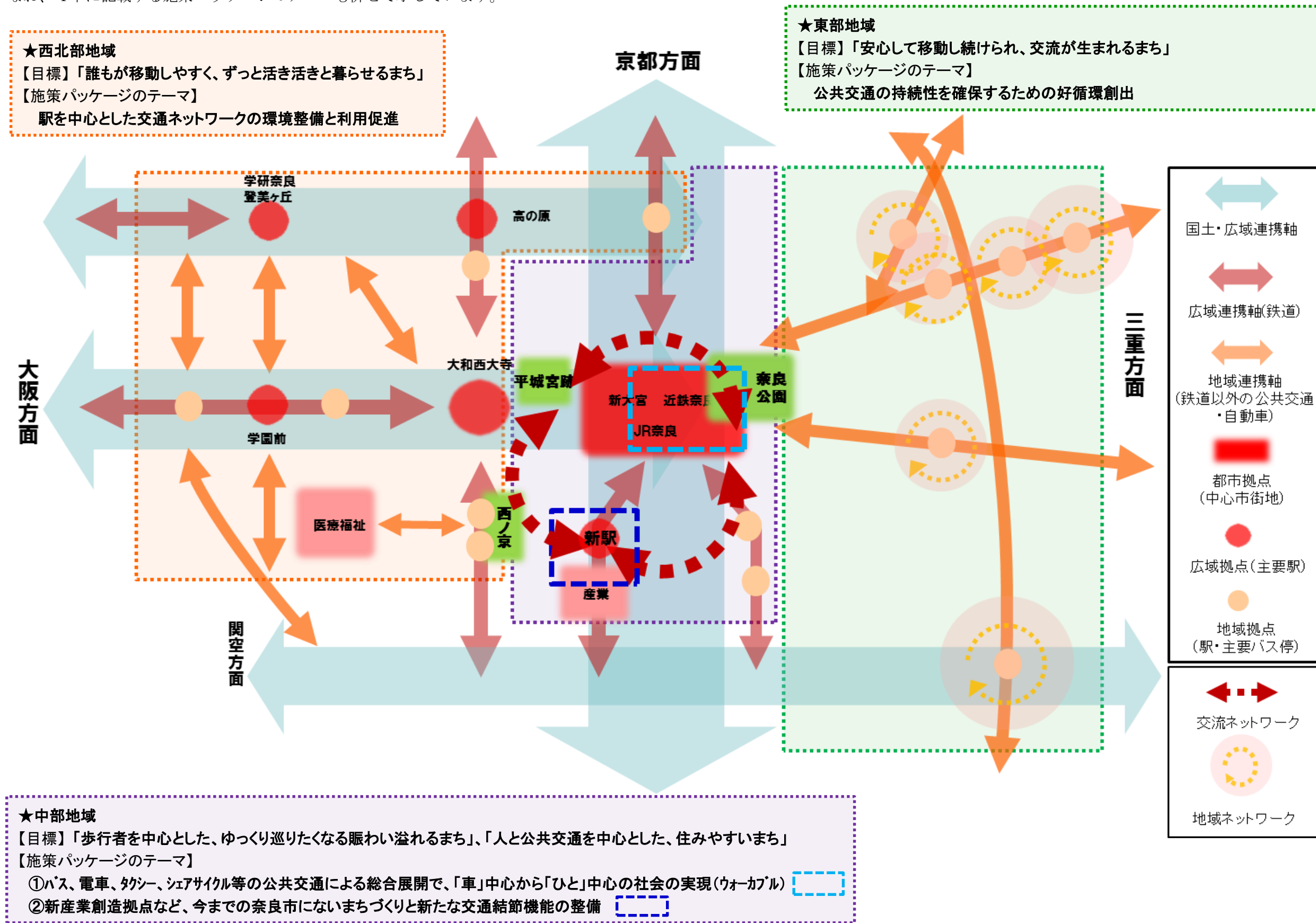
■交通の目標

誰もが移動しやすく、ずっと生き活きと暮らせるまち



3.4 目指す交通体系

地域別の交通に関する目標及び奈良市改訂都市計画マスタープランで示されている将来都市構造図、市街地構想図等を踏まえて、目指す交通体系を以下のように設定します。
 なお、4章に記載する施策パッケージのテーマも併せて示しています。



3.5 SDGsの実現イメージ

奈良市が目指す交通の将来像を実現することで、クロスセクター効果（多面的な効果）を発現し、SDGs（持続可能な開発目標）実現へ向けた貢献を図ります。

SDGs（持続可能な開発目標）



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Japan.
Committed
to SDGs

1 貧困をなくそう



2 気候変動をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を促進しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくも資源の責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう





※持続可能な開発目標(SDGs)とは:2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。

出典：外務省ホームページ

貢献

奈良市が目指す交通の将来像

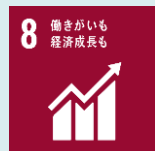
「自由で安全に出かけられ、多くの交流が生まれる、住み続けたいと思えるまちづくり」

- ① 既存の公共交通ネットワークや新たな交通結節点を最大限活用したまちづくりを推進します。
- ② ひとを中心とした交通(鉄道・バス・タクシー・新たな公共交通システム・自動車・自転車・徒歩など)のベストミックスにより、持続可能な地域交通の構築を目指します。
- ③ すべての関係者が連携・協力し、交通が交流を支え、交流が交通を支えるという好循環の確立を目指します。
- ④ 人、ものの交流と観光を含む広域交流を支える仕組みをつくります。
- ⑤ エリアの特性を活かして、各エリアの持っている魅力を活かします。

期待されるクロスセクター効果



例えば、安全に外出できることで



例えば、観光消費が高まることで



例えば、新駅ができることで



例えば、駅周辺の利便性が高まることで



例えば、マイカーから公共交通に転換することで



例えば、新たな交流が生まれることで